入学式　祝辞

三寒四温、先日まで朝冷えの日が続きましたが、いよいよ松本平にも桜の便りが届き、うららかな、心も弾む季節の到来となりました。まるで、皆さんの入学を待っていたかのようです。

新入生の皆さん、本日は、ご入学、誠におめでとうございます。特に、コロナが蔓延する中での受験勉強は、様々な制約があり大変であったと思います。

そして、そのような悪条件の中で受験生を支え、励ましてこられた保護者の皆様、本日の喜びは格別なものであると思います。ほっとされていることでありましょう。心よりお祝いを申し上げます。

さて、皆さん、先程は、美須々自慢の吹奏楽部の生演奏と、満場の拍手に迎えられての入場、いかがでしたでしょうか。緊張の中、期待や不安も多いことかと思いますが、先生方や頼りになる先輩たちが大勢いますので、みなさんには、学業に、部活動に、充実した高校生活を過ごしていただけるものと思っています。

同窓会長の私からは、新入生の皆さんを前にし、折角の機会ですので、母校の歴史についてご紹介させて頂きます。

母校は、平成２１年、２００９年に創立１００周年を迎え、今年は１１４年目にあたります。

新入生の皆さんは、美須々の昇降口に掲げられている「美須々ヶ丘憲法」をご覧になりましたか。１９９６年、今から２６年前になりますが、日本国憲法制定５０周年を記念して生徒会で策定したものです。「自由に甘えず、自由を育てよう」と始まります。

この憲法にもある、美須々の「自由と自立」の理念は、明治４２年開校の市立松本女子職業学校に始まっていたのです。開校の目的は、女子の自立と地位の向上であり、当時の時代の要請に応えたものでありました。

次の節目は、戦後となりますが、本校のもう一つ前身である男子校、松本市立中学校との統合であります。女子校に男子校が併合され、時代の先駆けとなった男女共学校の誕生でありました。

その様子は、詩人北村透谷の「一つの枝に双つの蝶が羽を収めてやすらえり」に例えられ、昭和２４年創刊の校友誌「双蝶」の名称にもなりました。現在も美須々の文化祭「双蝶祭」として受け継がれています。

先日まで甲子園で開催されていた、春の選抜高等学校野球大

会は、大阪桐蔭高校の優勝で幕を閉じましたが、母校は昭和２１年市立中学で、２４年には、市立高校で、県代表として出場を果たしています。

その後、昭和２９年の県立移管と共に、松本市立高等学校は、長野県松本美須々ヶ丘高等学校となり、現在に至っています。

同窓生は、現在３万６千余名。中信地区の伝統校の一角を成しております。

同窓会では、母校の百周年に、美須々教育会館を、三年前には、新型のマイクロバスを、昨年はタブレット型パソコンを本校に寄贈しています。今後も在校生に役立つよう、学校側の要望にできる限りお応えしてゆこうと思っています。

まとめとなりますが、新しい時代の幕開けと共に、「学び」も変わります。

急速なグローバル化や高度情報化、技術革新が進む世の中では、「時代の流れに対応できる思考力、探求力、行動力」が求められます。皆さんの「生きる力」を引き出す学習が始まります。変化に対応できる能力や協調性が重要になります。

私は、美須々の卒業生をたくさん知っていますが、どうやら美須々の生徒は、ＤＮＡとして、この能力を持っている人が多いように思います。

新入生の皆さんには、自信をもっていただきたい。皆さんは、世界の人々と交流できるコミュニケーション能力を磨き、将来に備え、のびのびと勉学にスポーツに励んで頂きたいと思います。

最後に、先生方には、従来同様、熱意あふれるご指導と、保護者の皆様には、生徒たちへの温かいご支援をお願い申し上げ、お祝いのごあいさつとさせていただきます。

令和４年４月６日

同窓会長　小林磨史